

# もど子と人婦

號參第 卷貳拾第



行發會ルベールフ

第二十卷第三號目次

三月

歐米初等教育近時の傾向

棚橋源太郎

眞に子供のため

倉橋惣三

森の幼稚園

佐々木生

机邊だより

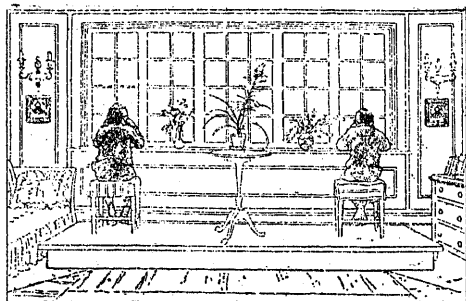
倉橋惣三

——「グル、チンスカ女史」人形遊びの實驗——

隨感

藤園女

雜錄



# 婦人と子ども

第十二卷第三號

三月

をんどりよろこ 牡雞は歡びの聲をあげ

をがわ みづ やうく なが 小川の水は濺々として流れ

ことりさへづ 小鳥 轉り

このん 湖面きらめき

みどりの につくりやう よく 緑の野は日 光に浴して眠る。

を もみわからちの 老いし者若き者

みな 皆つとめい そしみ

くさは かひつしら 草を食む飼牛等

いうくかうべた 悠々頭を垂れて

こと 五十頭一つの如し

やぶ 敗れたる軍のさまに

ゆきき しりぞ 雪は消え退きて

いま 今しいとまな告げてゆく

か なが 彼の丘の頂に。

のうどうときあ 農童は関を揚ぐ——縋りかへしく

やまぐくわんき 山々に歡喜あり

いづみ 泉には生命ありと。

へんうんたぎよ 片雲 深 びのがれ

そくつか 蒼空勝ちばひこり

あめさ 雨去り過ぎてあともあるなし。

(ワオルズオース)

## 歐米初等教育近時の傾向

(フレーベル會二月例會に於ける講演大要)

東京高等師範學校教授 棚橋源太郎

### 獨逸に於ける作業教授

私は獨逸と米國へ留學を命ぜられました序をもちまして歐羅巴諸國の教育をも視察して參つたのでありますけれども、茲では主として、獨、英、米の三ヶ國に就いて、而も御話を初等教育の範圍に限つて申上げて見度いと思ひます。

歐米諸國の初等教育に於きまして、近來著しく盛んになつて、現今の初等教育上に大なる勢力を占めて來ました問題の**一は、教授上の作業主義といふこと**であります。我が國では、作業といふことを、**手工科の中に含ませてありますけれども、近來はこの二ツを截然區別するやうになりました。**成る程、其の實際形に現はれた上から見ます

ると、**作業も手工と同様に、紙、粘土、木材等を使つて、いろいろの細工するものには、相違ありません。**それ故に、この二ツは全く同じもの、やうに見えるのです。然らば其の異なる點は何處にあるかと申しますと、**手工は一の獨立した學科であるのに對して、作業はあらゆる學科に普遍的な教授上の一の主義なのであります。**觀察教授が教授上の一の主義である如く、**作業もまた教授上の一主義なのです。**更らに言い換へますと、**手工はいろいろの細工から成り立つた技術的の科目であります、手の習練、技能の發達等を目的と致しますのに對して作業は事物教授の一段階として、すべての教科に通じて施されるのであります、**

そして其の主目的は其等の教科で與へた知識觀念を、主として作業に依つて明確にしやうとするにあるのであります。

即ち或る一の事物に就いて觀察的に教授した事柄を、粘土や紙や之に要する工具を與へて、これを製作し形の上に發表せしむるのであります。獨逸では手工科は教則上獨り女兒にのみ課して、男兒には施さないことになつてゐますけれども、作業は今申し述べたやうな理由で、男女兒を通じて一般に課せられてゐるのであります。

由來、獨逸の教育は主として精神的陶冶に重きを置いてゐましたのに、近來どうして、かういふ作業教育といふやうな問題が盛んになつて來たかと申しますと、それには二ツの原因がある様に見える。其の一は英米に於ける職業主義教育の影響で他の一は最近に於ける實驗心理學、實驗教育學の影響であります。

(一)英米に於ける職業主義教育の影響、理科、手工と云ふ様な點に就いては、英米は獨逸よりも先進國といふことが出來ます。そして英米に於ける普通教育の趨勢といふものは、近來職業主義に傾いて來たのであります。結り、普通教育の理想として職業的堪能といふことを重視して來たのであります。兒童が小學校を卒へて社會に出ますと、直ぐに職業に就くことの出來る修養を與へて置くといふことが、重く見られて來たのであります。さういふ考へから米國などでは、十一二才位から小學兒童を職業學校へ入れて職業的教育を與へたり、又小學校在學のものにも盛に職業教育をしてゐるのであります。其職業の種類には製本であるとか、染織とか糸や木皮のあみものであるとか殊に印刷術に至ると、餘程進んだもので、學校で何か生徒の催す會がありますと、其の目錄は必ず生徒の意匠で彼等自らの印刷になる位であります。

其の外、木工、金工などは云ふまでもなく、籠細工、帽子の製造といふ様な類もあります。

英國に於きましても、高等小學といふのは漸次衰退の傾向を示し、十二歳以上の子供で優等なものは特別の給費を與へて中央學校といふ比較的高い職業教育に重きを置いた學校へ進級せしむるといふやうになつてゐるので、十五六才で其の學校を出ますと、もう立派に一人前の人間として、工場や商店に相當な地位を得ることが出来るのであります。要するに、小學校を終へると直ぐに社會の一員として立つことが出来る資格を與へなければ、教育の完きを得たものではないといふやうに考へられて來たのであります。殊に米國の中等教育に至りましては、この主義が一層發揮されて居ります。米國の中學校は多くは實業的中學であります。故に工業を課して居る中學校は所謂手工學校であります。手工學校であります。

と云ふのは、工業を主とした中學でありまして大學へ進むものの爲めに一般的素地を與へると共に大學へ進まない生徒の爲めにも、社會へ出て直に職業に就くことの出来る工業的の自習を課するのです。固より完成した大きな機械などを製作すると云ふまでに至らないのでありますが、其の部分／＼を立派に作り上げることが出来るやうになつて居りますから、社會へ出て直ぐに役にたつてあります。

英米に於ける此の教育主義は少からず獨逸の教育を刺戟した様であります。其結果、學問的教育精神的陶冶に重きを置いてゐた獨逸は漸く作業主義に傾いて來たのであります。ミュンヘン市の教育課長ケルシエスタイネル氏は斯國に於ける職業主義教育者の代表者とも見るべき人であります。獨逸の作業主義教育を盛ならしめた今一の原因は、實驗心理學、及び實驗教育學の影響であります。

す。

(二) 實驗心理學及び實驗教育學の影響。晩近に於ける實驗心理學の研究が著しく進歩して來ました結果、運動神經を使へば、腦中樞の發達が助長されて行くものであるといふことが明瞭になつて來たのであります。結り、手指を使へば、それに伴つて頭腦の生理的發達を促しそれが精神の發達に影響するのであります。今まで言葉の不十分であつた子供が、手指の神經を働かせた爲めにもものを云い得るやうになると言つた様な譯であります。殊に幼稚園時代から十五六歳までの間が、最も此の手指の動作が必要であります、この時代の心理的要求は、即ち手の仕事を喜ぶといふことにあります。そしてまた其手の仕事を通して想像、推理等の働きを助け、與へられた知識觀念を動作に發表することに依つて一層明瞭にするといふことが明瞭になつて來たのであります。これが獨逸の教

育者をして、近來盛なる作業主義に傾かしめた重なる原因であります。

### 作業教授の實例

前に申しました様に、作業教授は教育上の一つの主義でありますから。どの學科に對しても行はれてゐるのであります。例へば、數學にしましても六といふ數を教へれば、直ぐに六つだけの何かの形を紙で剪らせて見る。國語に於いてAといふ文字を教えますと、直ぐにマツチの棒でAの字の形を作らしめる。幾何學初步にしても、實物について立方體六面體といふことの觀念を與へると、次に粘土を與へて立方體を作らせて見るのであります。其の外、理科にしても、氣壓といふことを授けると其應用に簡單な水鐵砲を作らしめ、歴史にありては、野蕃人の用いた器具や、衣類、弓箭などは、木石の片や木の皮などで作らしめ、地理にあつては、簡單な起伏地圖を作らしむると云ふや

うな譯であります。最も面白いのは、昔話を手工に發表させることであります。いろ／＼な色紙を與へて、暗い夜の背景を表す場合には、黒い紙を貼り、星を現す爲めには、黄色の紙を星の形に切つて其の上に貼り、樹なり橋なり、人間なりは同様、その形を作つて、其の上に貼る。斯くして一つの昔話を作り上げることによつてきとまつた、判きりとした理解が子供の心に出来ると同時に手藝上の習練ともなるのであります。

女兒に對しては、かういう作業の外に手藝、料理、洗濯等が課せられて、新しく建築された校舎には必らず料理室洗濯室等が設けられて居るのであります。或る女流教育家の如きは、此の料理、洗濯や園藝までも理科教授に連關せる作業教授の中に包含せしめて貰い度いと云ふ發議をして居る位であります。男女を通して手藝手工といふことは、低能兒學校、孤兒院、兒童保護教育所、感化

院或は母親の毎日の仕事に出て留守の中子供を預つて世話する、兒童預り所等に於いて一層盛んに行はれてゐるのであります。不良兒童を善い方に感化し低能なる子供を醫すに利用されて居ります總てかういふ風でありますから、其の影響が一般の家庭にまでも及ばし、家庭に於ける子供の遊戲が矢張り作業的に傾き、遊びと云へば、必ず鋸や鑿を使ひ、針金切り螺旋まはしを使つて何かを作つて居ります。それに飽けば庭へ出て畑を作るといふやうな遊び方をして居るのです。随つて近來の玩具の傾向も矢張り、大工道具であるとか、農具であるとか料理道具であるとか、いふものが一般に流行し、少年書類の如きも、亦同様で獨りで以て人形の舞臺丈の家飛行器人形の道具を造るとか料理遊びや園藝杯に關したものが一番よく讀まれてゐるようであります。これを以て見ても、作業主義が、一般の家庭にまでも及んでゐるといふことが明かであります。



## 眞に子供のため

世の中に眞に子供を食ふ鬼は居ないかもしれない。併し、鬼と人間との中間位のもものは往々珍らしくない。或は貴子虐待とか繼子虐待とかの記事が新聞に度々出る。實に困つたことであります。そういふ特別の類のことは今日は申さない。處でそういふ半鬼半人間の連中を除けて仕舞へば、親として、大人として、誰れとして「子供のため」を思はないものはない。子供のためを思はなければならぬといふ様のことは、何も今更いふ必要のないことである。しかし、吾々はよく考へて、見なければならぬ。吾々の日常して居ることが、實際この心と眞に合して居るであらうか。考へ違ひ、思ひ違ひ、乃至一寸した不注意から、實は子供のためにならぬことを吾れ人ともに度々しては居ま

### 倉橋惣三

いか。色々の方面から厳しくお互を省みて見度い。

#### 一 親を選ぶ權利

先づ吾々の第一に考へなければならぬことは子供を眞に幸福に生むことである。子供を愛するといふことが、子供が生れてから後に初めて初まるべきことと思ふのは、未だ充分深い愛心とはいへない。勿論情の上から起る愛は夫れで當然かも知らぬ。併し、我子に對する當然なる親の義務——即ち愛心の初まりは子供を如何に生むかといふ處から初まらなければならぬ。彼の不具の子供は誰れが生んだのです。彼の白痴兒は誰れが生んだのです。或は天命などいふて、人を慰め自分も慰めて居る。併し其の子供等の不幸の責は一體誰れにあるのでせうか。こういふ子供達の不幸の原因

を學問的に調べて見ると、多くは父親の不身持であるとか、懷妊中の母親の不注意であるとか、或は結婚の誤りであるとか、要するに何も知らない可憐の兒が、生れながらに親の罪を負はされて居るのである。しかも、子としては何處までも「生みの恩」を謝さなければならんといふのは、條理に於ては矛盾ではなからうか。有名なエレン、ケレーといふ人は「子供の世紀」といふ本を著して眞に子供の友としていろ／＼世間の大人達を誠めて居る中に「親を撰ぶの權利」といふことを言つて居る。そして其の中に「寧ろ生んだ罪を親から謝さねばならぬ方が遙に多い様である」といふ様な言葉がある。之れは一寸聞くと随分極端な過激な言の様であるし、又吾々として親の子としては如何なる場合にも、斯ういふことを思ひ度くはない。又、子供の方から赤旗でも翻へして、斯ういふ言をなして來るのでは吾々も忘やになるが、けれど

も之れは理に於ては事實である。少くも此の位までは大人自ら身を責める心は是非あつて欲しいと思ふ。「親の善惡子に報ゆ」とか「親の因果が子に報い」とかいふことは、見世物師の口上などで平氣で聞き慣れて居る様なものゝ、子供の友としては聞くにたえない悲惨の言葉である。但し私は斯ういふことを言つて、世の不具兒白痴兒の現在の親御に向つて、嚴しい無情なことをいふのではない。寧ろ私は、そういふ親御達と共に愛する子供達の爲に泣かうと思ふ。過ぎたことに鞭ふり上げて、かへらぬことを責めようとするのではない。たゞ之れから後を必ず慎み度いと希ふのである。嚴肅な遺傳の理や、細心な胎教の誠めの前に、吾々の心是非常に引しめて居たいと思ふのである。私は不品行に身を持ち潰して居る人々を見て常におもふ。大酒に骨を腐さらせ、其の危険を知りながら病毒に身を爛かして居る人々を見て常に思ふ。

何も六かしい理屈や高尚な教えの助けは借らずともいゝ、我が生む子供のためといふ心一つで、戦き怖れて身を慎まねばならぬではないかと、「親を撰ぶ權利」といふ語氣が荒過ぎるならば、「親となる資格」といふ語で眞に子供の爲に自ら深く省みようではありませんか。

## 二 甘過ぎと辛過ぎ

子供を育てる程六かしいことはない。中にも、自分の子を育てる程六かしいことはない。實はさう六かしい筈ではない譯であるが、所謂古い歌にいふ通り、「子を思ふ故に迷ひぬるかな」で、人の親の心は素より闇ではないのであるけれども、愛ゆゑにこそ迷ひも出る。間違ひもする。言ひかへれば「子供の爲め」を思へばこそ「眞に子供の爲め」でないことも起るのである。其の鹽梅の兩極端が甘過ぎと辛過ぎとの二種になる。

極端なあまやかしの弊は、誰れも知ることでない。

ふ迄もない。諺にいふ「あまやかし子を捨てる」の理で、溺愛の淵は却つて子供の不幸である。いなりほうだい、はいく」と子供の御機嫌ばかりとつて、子供天下に育て上げれば、成る程其の時は子供も安樂であるかも知れない。子供の得意な顔を眺めて、親の心も嬉しいかも知れない。併し、其の態だらくを見て、坊ちやまは結構なことで御坐いますといふのは、前の長屋の婆さんの無責任なお世辭で、眞にその子の爲を思ふ伯父様の心ではない。斯ういふ風に育てられた子供は、第一に我まゝ増長、自ら己を制するといふ、こらへ力の發達がまるで出来ない、上はべの強者、實は極くの意氣地無しが出来上がる。第二には正當に人を憚るといふ優しい訓練のつきようがない。いちけた、不正當に、人を憚り怖れる習慣に比べては、子供としてはまだ此方に取得があるかも知れないが、貴い人格の完成の爲には大いなる缺點となる。自

分の目上といふ類のつゝましさも無くなつて、無遠慮無作法千萬な人間が出来上る。之れも子供かはゆいの手加減が過ぎた結果である。古い川流に「やみ上り親を遣ふが癖になり」とある。此の子はほんとうに勝手な子だよと口でいひながら、矢張り一々子供に遣はれて居る甘い親も少くない。わけでも此の類は母親に多いのである。折角父親が厳しく引締めて行つても、目の前の可愛さにとろげて、母親があとから其の締めくゝりを解いてゆく。之れも古いものに「母親はあとから釘をぬいてゆき」といふのがあるが、躰はあとから

／＼毀れて仕舞ふのである。  
あまやかしの反對は、辛過である。厳し過ぎである。世には子供の教育は厳しくさへあればよいと思つて居る人も少くないが、之れ亦過ぐれば尙及ばざるに同じく弊がある。殊に厳し過ぎに伴ふいろ／＼の叱り方の中には甚だ誤つたものが多

い。一體世間には、小言をいふことが即ち子供の教育だと思つて居る人が少くないが、之れは根本的間違ひである。實は小言は教育上最も下手な手段なのである。若しほんとうに行き届いた教育者があるならば、小言などとは一つも使はないでいゝ筈なのである。それを何かといへば子供に小言ばかり云つて居る人は、自分の教育の不行届を自白して居る人といふ譯だ。殊に、子供の爲めと名のつく小言の中に、實は自分の痼癪がもとになつて、腹癒せ半分であることが屢々ある。私は之れを「怒り叱り」と名をつけて居るが、非常な非教育的なことである。腹立ちまぎれに拳固の一つも呉れて置いて「子供のため」が呆れるのである。但し「怒り叱り」はそう烈しい叱り方の場合のみではない、外見は上品らしいお小言の中に、随分此の類に入るものが少くない。自分の機嫌次第、其の日／＼の風の吹き廻し様で、氣まぐれ千萬の

叱り方をする「お天氣叱り」なども矢張り此の一つである。

全體苟も子供を叱るといふ場合には、其の惡戯なり、其の強情なり、眞に子供の爲によくない點を明かにして、その點をしつかりと叱るべきである。即ち言ひ方を換へていへば、純ら子供を標準にして、其の子供の爲に叱るべきである。少しでも此他の理由で、或は大人の自分の都合からとか、人まへとか、そんなことで叱ることがあつてはならぬのである。さうしないと、小言は却つて子供の害になる。叱り方の巧拙も大事なことであるが、叱る時の我が動機の誤り程、子供に悪い、恐ろしい影響を與へることはない。

小言について誤用され易いことは、干渉の濫用である。子供を可愛いと思ふにつけて、親の干渉は募り易いものである。併し、之れ亦、自分本位の干渉と子供本位の干渉とは、相似て非常な違ひで

ある。一ト通り子供のためといふ許りでなしに、先きの先きを見通しての子供の爲でなくてはならぬ。つまり、自分本位の干渉は氣短にせつかな、目の前のみ狙ふ干渉になる。従つて、大きいことでも小さいことでも、一から十まで、一々自分の思ふ通りにさせやうとする。さうすると、假令始めは子供のために出た干渉でも、いつしか大人の我意の遂行になる、其の結果は一方には前の子供天下と同じ様に、萬事自立力のない意氣地なしの子供が出来る。又一方には干渉のうるさゝに反抗して、ひねくれ者か、虚偽者が出来る。吾等は、干渉々々、事ごとに手も足も出せない様に育てられて、氣の抜けた様な「おとなしい」子供を時々見る。さうかと思ふと、干渉に矢鱈そののかされて、室咲の花よりも散り易い、ませた早熟の子供に遇ふこともある。みんな間違つた「子供のため」の犠牲なのではあるまいか。

### 三 親の虚榮心

之れも名は「子供の爲」である一つで、實は大  
人達の虚榮の爲である例が世に澤山ある。先づ誕  
生間もないお宮詣りから既にそろ／＼之れが始ま  
る。但し舊い慣例に従つて、子供を先づ氏神様へ  
お詣りにつれてゆくといふ、その元來の敬神のこ  
ゝろを決して兎角くいふのではない。それは誠に  
美はしい親の情の發露として世に貴いことゝの一  
つとは思ふのであるが、惜しいかな、それにも、  
親の虚榮が、またしても我々の眉をひそめさす。  
七五三のお祝ひがまた同じである。私は神田の明  
神様などで、美々うく重い着物に着飾られて、重  
いボツクリに足枷をされて、お母さんと乳母に兩  
方から手をひつばられて、あくびをしながらお鳥  
居をくやる、疲れた、だるさうな、睡さうな私  
はもういやだといふ氣力さへ盡きたやうな、紅お  
白粉で塗りつぶされた可憐の子供の顔を、顔をし

かめて見たことが幾度もある。それからまた、例  
の何々講中のお稚兒様といふのが、矢張り之れと  
同じである。七、八歳から下はいたいけな三、四  
歳の兒で、厚化粧に頬紅させた天童姿は、遠く望  
めばお人形様の様に立派だが、近づいて見れば、  
口に照されて、長い／＼行列を埃まみれに疲れき  
つて、汗に班な白粉も汚らしいが、けたるさうな  
目に何の生氣もない、大人のいふ理屈を聞けば、  
子供のための功德かも知らぬ。併し、迷惑なのは  
其の子供である。何さんでは縮緬の何枚重さね、  
どこの家では京へ誂へた染めがどうのと、つまり  
は親達の虚榮の張りぐらの道具に使はれて居るに  
過ぎぬ。我が子美しく飾り度い親心の一通りに對  
しては、素より窟屈な野暮をいふではないが、子  
供の爲はどこまでも、眞に子供の爲であつて欲し  
い。殊に段々子供が成長して、さなきだに女の子  
などの虚榮心の高ぶり易い頃になると、此の種の

親の虚榮心なるものが、どの位子供の品性に悪い影響を與へるかわからない。前の幼い時分の、體に與へる影響よりも尙々怖ろしいことになるのである。それからもう一種、害の多い虚榮がある。これは先づ、例のおつむてんく、ばんじやいくの頃から始まる。坊やお客さんがいらしたよ。例のとつときの藝當をしてお目におかけといった風で、ほんの可愛らしいお愛相の一つ二つなら兎に角く、も一つく、まだく、えつ、昨日は出来たのに、今日はなせ出来ないの、そらくこれでも出来ないのと言つた調子で、お客様の喝采を強請する。心ないお客様も亦い、氣になつて、半分は面白く、半分はお世辭か何かの積りで、坊ちやんおえらいくなど、嘸し立てる。大人ならば疾くに五月蠅と大喝もすべき處を、子供だからこそ機械的に「いゝお顔」もすればおつむてんくも繰りかへす。私は斯ういふのを慈愛的虐待と稱

して居る。これが學校へゆく様になつては益々以て嵩じて来る。個性に應じ、天分の能力に従つて其の子供相應な成績を期待するといふ正しい考へは忘れて仕舞つて、何でも性急なをして、過度な要求をくとする。それがまた子供のためといふ名のもとに、根を洗つて見れば實は親達の虚榮から出て居るのである。斯うして世上幾多の不自然な早熟兒が出来る。ほんの一時の評判のあとのみじめに萎びてゆく早熟早衰の子供が出来る。而して斯ういふ悲惨のことが「子供のため」と稱されてゐるのだから遺憾ではないか「子供のため」と「眞に子供のため」とは、是に至つて雲泥萬里の差になつて来る。

#### 四 現在主義を排せ

斯う數へ上げてゆけば殆んど限りがない。が要するに「眞に子供のため」の要點は何處にあらうか。箇條書に掲げてゆけば、之れも幾つにでもな

ることと思ふ。併し、私は最も大切な點と思ふ一つを以て、此のお話を結び度いと思ふ。それは外でもない。教育上の現在主義を排せよといふことである。子供の目の前の幸、不幸にのみ氣を奪られないで、遠い將來の幸福を目あてに、遠い大きい落付いた慮をせよといふことである。吾々は常に此の心懸を失ふては色々の誤りを仕出かすのである。よくいへば餘り氣を小さく「子供のため」に思ひ當るからでもあるが、惡くいへば深い考へのないことになる。一時の愛に溺れてあまやかしの過ぎるのも要するに此の爲ではないか。嚴し過ぎる干渉も亦要するに此の爲ではないか。くだらない當座の虚榮に驅られて、あたらしい行末の大損を忘れるのも要するに此の爲ではないか。其の反對に「眞に子供のため」を思ふものは、子供の眞の將來の爲に、目をつぶつても子供を苦ますのである。小さいことはがまんしても子供の眞の大きな

い發達を謀るのである。世に「せつがち」主義、「目のまへ」主義、「みえ坊」主義の育て方程、眞に子供の爲にならぬものはない。吾等の大切な子供達には、明日もある。明後日もある。遠い將來がある。要するに「眞の子供のため」は眞に子供の將來のためである。(完)

本篇は嘗て横濱海國母の會に於て講演したものでありますが再びこゝに轉載しました——倉橋生





# 森の幼稚園 (三)

## 五、詩の會

正面のフレーベルの肖像を中心にして、左右の壁にはいろいろの額が大小とりぐのいゝ配合に掛けてあります。いづれも極めて質素な額縁のみであります。揃ひも揃つて名畫ばかり。レイノルドの『無邪氣』、リヒターの『我が巢』などを始めとしてウーデーやラルソンの様な新しい小兒畫家の傑作もあります。中央の橢圓形な大テーブルを圍んで之れもいろいろの形の椅子に心持ちよさそうに倚りかゝつた一人々々が銘々小形の本を持つて居ます。

『今日は吉田さんの番でしたねえ。どうです此の前に讀んだロングフエローなどに比べると、まるつきり調子が違つて居ましょう。全體此のプレー

S K 生

キは一種奇妙な性格の詩人で、一方には美術家としても歴史上に名を存して居る人ですが大體に於て、神秘的な傾向の多い人です。その人がこんな詩を書いて居るのが元來不思議に思はれる位なのです。ですから同じ子供を歌ふと言つても多少風調の變つた處もあります。併し英文學中の子供に關する詩の中で最も大切な實であることは認めなければなりません。』

『先生、私は此の詩集の表題が好きです。ソングス、オブ、インノセンス(無邪氣の歌)私も此の通りの題で何か詩集をこしらへて見度くなりまして。』

『ハ、ハ、ハ。美山君には氣に入りそうな題だ。どうです。皆で一つなり二つなり詩を書いて、それ

を集めてソングス、オブ、インノセンスを作つたら。面白い詩集が出来ますよ。鳥林さん一つどうです。』

『あら先生。私なんぞに……』

『なあに、毎日子供の言つてゐることを其のまゝ書きさへすれば、直ぐ立派なソングス、オブ、インノセンスが出来るじやありませんか。』

『それで御座いますねえ』

『そうです、そうです。可愛らしい大詩人が百五十人も居るんだからねえ。處で吉田さん始めませんか。』

森の幼稚園ではお互の心と頭との修養の爲に出來得るだけの力を盡して居ます。その爲に忙しい中で色々な會もあります。此の「詩の會」も其の一つで隔週金曜日の夜に此の室で開くことになつて居ます。そして英文の出來る人が交はるゝ解説をする。英文のよく分らない人も其の解説を聞き

ては感想などを述べる。美山君が特に此の會の主任者として皆の分らないことは教えるといふ風になつて居ます。始めは自分で讀む人は極く少數でしたがどうも人の解説では満足出來ない處から、皆勉強して今は殆んど皆大體の意味位は獨りで分かるようになりました。

先生のお考へでは、子供の侶たるものは始終新鮮な、うるほひのある、美しい心持で居なければならぬ。學問も必要技術も必要だが、それだけでは子供の侶にはなれない。ことによると子供から段々離れこそすれ、子供と同じ調子に和階することは出來ない。すべての子供は生れながらの詩人である。吾々も心に此の詩人的要素がなくては、子供と眞に溶和することは出來ないといふのです。それで此の「詩の會」が極く重要な修養の機關になつて居ます。「詩の會」といひますが、必ずしも詩ばかりではない。立派な小説も讀みますし、

また繪畫や音楽の話もする。乾き易い、冷い批評家になり易い私共の心を高尚な藝術の力で補ひ養つてゆこうといふのです。

今夜は丁度春まだ浅い雨の夜で、窓硝子のぼん

## 机邊　だより

### 人形遊びの實驗

(グルチンスカ女史)

#### 一、人形は教育上にどんな

價値があるか

子供の人形遊びは、教育上いろいろ利益のあることは、今更ら申上げるまでもないことであります。子供の精神や感情や、其の眼や指端などの感覺の發達を助けてゆく點では、圖書と相比より

と曇つて居るのも一入靜かな落ついた感じがします。二番目の窓際にアスバラガスの鉢と並べて置いた私の丹精のスノウドロップスの只一輪くつきりと白いのがさつきから目につきます。

倉　橋　惣　三

することが出来ます。たい圖書は主として、觀察力や注意を豊富にするに對して、人形は人を愛し人を重じ、人に注意する感情を養ふことが主なる利益となつて居ます。

又、吾々が兒童を研究する上にも、人形遊びはいろいろの便宜を與へて呉れます。例へば、子供が人形を持ちました時に、どういふ遊び方をするかといふことを注意しますと、人形に對する其の子供の態度なり、心の働き方なりを知ることが出

來、且つ子供は一般に、どんな人形を好むものであらうか、人形に對して、どんな希望を持つてゐるかといふやうなことも、容易に知ることが出来る。

心理學者及び兒童研究家として有名なスタンレー

ホール (Stanley Hall) やサリー (Sully) 等は夙に此の方面に注意して、多くの益ある研究を發表されてゐます。茲に御紹介しやうとする研究は、ポランド人の兒童に就き、質問法に依つて實驗した結果であります。

子供と云へば、直ぐ人形が聯想されます程に、子供と人形は密接な關係を持つて居るものであります。人形が子供の玩具として用ゐらるゝやうになりましたのも、餘程古くからで、古代埃及に於ける石棺や、伊太利の舊都や、羅馬の古墳から子供の體と共に、いろ／＼な人形が發掘されるところを見ましても、少くとも其の時代前から人形遊

びの行はれて居ましたことは明であります。然しさういふ人形の歴史上の研究は後にして、茲では現在に於ける人形遊びの研究に移ります。

## 二、此の實驗に用ゐた質問の方法

此の實驗では、子供に次の質問を與へて、それぞれ答を求めたのであります。

(一) 人形を御好きですか。人形遊をなさいますか。あなたの人形に名をつけましたか。あなたの人形は善い子ですか。あなたは人形を懲しますか。どうして懲しますか。あなたの人形は病氣になつたことがありますか。あなたは自分で其の病氣を治療しましたか、人形は今までにどんな病氣をしましたか。

(二) あなたは人形に着物を縫つて上げますか。人形を着物を洗濯なさいますか。人形に御湯をつかせますか。あなたの人形は上衣と帽子を幾枚御持ちですか。さういふ着物は誰が御作り

なさいますか。

(三)あなたの人形は何を召上りますか。貴方が散歩なすつたり御用に行らしやる時は、人形をどうなさいますか。

(四)あなたは白い髪の人形と、黒い髪の方と、陶器の人形と紙人形と、大きな方と小さな方と、動く人形と御話をする人形と、どちらが御好きですか。

(五)あなたはこれまでに、紙人形や、布の人形や、木の人形を持つて遊んだことがありますか。

(六)あなたの人形は生きてゐますか。人形はあなたの云ふことが聞こえますか。そしてあなたの怒つたり、可愛がつたりすることが判りますか。

(七)あなたの人形が壊れると悲しいと思ひますか。更りの人形を戴けばいいと思ひますか。

(八)あなたは、もつと小さな子供であつた時と

今と、どちらが人形を好きでした。又、他所の人と一緒にあなたの人形を持つて遊ぶことが好きですか。貴方は人形と、どんな遊びごとをなさいますか。それを皆云つて御覧なさい。

(九)あなたは古くなつた人形や、壊れた人形をどうなさいますか。

(十)あなたは何故人形遊びを續けてなさらないのですか。

### 三、質問に答へた子供のいろ／＼

この質問に答へた子供は、總數百八十二人で、ポランドの都會と田舎との、さまざまな地方の子供であります。其の中には、すい分貧しい子供もゐましたけれども、然し農家の子供は一人もゐなかつたのです。そして店で賣つて居る人形を持つて居る子供は一人もなく、皆、手製の人形でありましたので、甚しきは手製の人形の外は、見たこともないといふやうな子供も、二三人は居たの

であります。又、十歳までは人形遊びといふものを知らなかつた子供すらもあつたのです。而も特に其の子供の性質からではなく、全く家庭の境遇から、さういふ可憐な生活状態に居た爲めであるといふことは、子供の答に依つて知ることが出来るのです。例へば「私はお人形さんと遊ばれないの、お母さんが可けないと仰しやるから。」とか「私が人形を持つてゐるとお母さんが厭な顔になるの。私がもう大きくなつたのだから、お母さんの御手傳をしなければいけないと仰しやつたのです。」といふやうなのが、即ちそれであります。斯ういふ子供らしいとは云へない答へを僅に九歳や十一歳の子供から聞くといふことは、誠に悲むべきことで、家庭教育の上に餘程重大な事柄であらうと思はれます。

此の百八十二人の子供を年齢別にしますと、  
 女兒 自五歳至六歳 十二人

自六歳至七歳	廿九人
自七歳至八歳	卅四人
自八歳至九歳	廿四人
自九歳至十歳	十八人
自十歳至十一歳	廿五人
自十一歳至十二歳	十九人
自十二歳至十三歳	二人
自十三歳至十四歳	八人
男兒 自十歳至十一歳	二人

であります。

四、各の質問に答へた數と其の比  
 其の數を更に各の質問の題目に區別して「且つ總數との比をとりますと。」

答	數	比
人形を好むもの	一八〇	一〇〇〇
人形を持つて遊ぶもの	一五〇	八三・三
人形に名をつけたもの	一八〇	一〇〇〇

人形を罰するもの	六〇	三三・三
人形の病を治すもの	九四	五二・二
病の名を答へたもの	三九	二一・六
人形の着物を縫ふもの	一二〇	六六・六
人形を湯に入れるもの	二〇	一一・一
着物の洗濯をするもの	九七	五二・八
人形の下着を持つもの	一五〇	八三・八
人形に食を與へるもの	一二〇	六六・六
人形に御祈りをするもの	六	三・三
人形を散歩に連れて行くもの	一七	九・三
宅に置いて行くもの	一一五	六三・八
白い髪の人形を好むもの	一五〇	八三・三
黒い髪の方を好むもの	三〇	一六・六
大きな人形を好むもの	八〇	四四・四
小さな方を好むもの	二〇	一一・一
陶器の人形を好むもの	三〇	一六・六
布の人形を好むもの	四	二・二

ゴム製の方を好むもの	八	四・四
白い顔の人形を好むもの	二七	一五・〇
紅い顔の方を好むもの	三	一・六
紙人形を持つて遊ぶもの	〇	〇
人形は生きて居ると答ふるもの	一七	九・三
人形が壊ると悲しと答ふるもの	七五	四一・六
壊れ、ば修すと答ふるもの	一二〇	六六・六
人形を餘り好まないもの	九四	五二・二
人形を他人に借すを好まぬ者	一三四	七四・四
壊れた時の處分法を答へるもの	四九	二七・二

五、男の子供と人形遊び

上に掲げました總數の中で、男兒は僅に二人で、共に十歳から十一歳までの年齢でありました。が、二人とも非常に人形が好きでした、然し男の子供はどうしても自分の人形を持つて遊んで居るのを他の友達に笑はれないだらうかと氣遣つて居ると答へ、且つ幼少な時分よりは段々人形を好ま

ないやうになつたと答へたのであります。二人とも陶器の人形を好むと答へましたが、其の一人は白い髪の人形を好み、他の一人は黒い髪の方を好むと答へました。尙ほ一人は人形の下着を持つて居り、人形を床に入れたり、お祈りをしたりすると答へました。勿論此の二人の答へから決論する譯にはゆきませんけれども、一般に男の子供は、人形遊をする、からかはれたり、女らしいと云はれまいかといふ懸念を持つて居るといふことは疑ない點であらうと思はれます。

此の質問に答へた子供は、概ね人形を愛し、そして其の人形の名を答へたのであります。その中で一寸變つた名は「ヒルデブランド」であるとか、「ミミ」であるとか、「リリ」であるとか、「バメラ」であるとか「オフエリヤ」と云ふやうな名で一人の男兒は英國の勇士の名「アリス(Alice)」と呼んだのがあります。それは何處から得て來たものかと

調べますと、曾てお母さんから其の人の物語を聞いたことがあるのでそれを覚えて居て、人形に附けたものであつたのです。亞米利加の子供は、自分の友達なり知人なりの名を、よく人形に附ける習慣があるさうであります。

## 六、人形の懲罰と病氣の手當

女兒の五分の一は人形を懲すと答へましたけれども、男兒の方には一人もなかつたのです。云はい女の子供は人形のお母さんと云ふ地位に立つて、屢々人形を意見するものと思はれるのであつて、其の方法の中で、人形をなぐると答へたものが四十一人で、他は床の中へ入れたり、留守番をさせたり、物置の中へ入れたり、お飯を與へなかつたりする方法でありまして、大體に自分の受け経験からするものと思はれるのであります。病氣の名はいろ／＼違つたのがありましたが、其の病名は何處から得て來たかと云ひますと、そ



れには(一)經驗から知り得たもの、(二)人から聞いて知つたもの、若しくは自分が想像したもの、二種に大別することが出来ます。經驗から得たものは、實際人の病氣の場合にする手當と同様の方法を施すもので、例へば眼を病つて居るとすれば、綑帶を施すとか、眼を洗つてやるとか。咳の出る場合には、その藥を吞ますとか、打傷の場合には水で冷すといふやうに、それ／＼に實際の場合に合つた手當法を答へるのであります。

第二の種類の、室扶斯のやうな熱病であるとか、肺病であるとか、腦病であるとか、足を折つたとか、首を痛めたとか云ふやうな病名を付ける場合で、此等は皆實際の經驗から得たものではないので、従つて其の治療法に就いては何も答へないのであります。

七、病氣に特殊な注意を持つ子供  
私(實驗者を指す)の子供は四歳半の年齢であ

りましたが、屢々私の傍に來て、室扶斯や痘瘡や猩紅熱や癰腫のやうな病氣の時は、どうしたらよいかと問ひに來まして、いつも非常な注意を以て私の云ふ處を聞いて居ました。そして自分で病室の溫度を計つたり、食物を撰擇したするとは極めて嚴格で、病室には誰も入れなかつたり、戸をあら／＼しく閉めるのを止めたり、自分も歩くのに、爪先きで歩いたり、空氣の流通に注意したりするやうな細い點に迄も心を用ゐ、且つ室の隅に人形の床をのべて、病院を作り、自分で其處を見舞つて、茶やソツプを與へたりしました。これは他の兒童に比して餘程特殊な遊び方と云つてよろしからうと思はれます。

此の試驗者たる子供の中には「私の人形は一度も病氣になつたことはありません。」と答へた子供もありました、それは自分が一度も病に罹つた経験のない爲めであります。

曾て人形を持つことを許されなかつた子供が、其のお母さんが病氣になつた爲めに、初めて人形を與へて置きますと、後にお母さんの病氣が愉つて、初めて子供の室に行つて見ます、と、醫者と病人とのいろ／＼な對話を、人形の前で獨言して居るのを見たといふことでありまして、お母さんの病氣になつた時から、人形と病床の眞似をして遊ぶのを唯一の樂みとするやうになつたのであります。

#### 八、人形と衣服と食物とお祈

女兒の大部分と、一人の男兒は人形の着物を縫ふと答へたのでありまして、これは裁縫を課する上に非常な便宜を得らるゝことと思ひます、其の中で人形の上着を縫ふと答へたものが百五十人の多きを示しましたが、下着を縫ふと云ふものが僅に九十七人で而もそれが皆田舎の子供であつたと云ふことは、餘程注意すべき點であると思はれます。

す、これは都會の人々は下着などは上着で隠して居る爲めに、子供の注意を惹かないのであらうと思はれます。

人形に着物と食物を與へると答へたのが、百五十人の多數を示しましたが、顔を洗ふとか髪を洗ふとか、湯を使はせるとか云ふのは、僅に二十人であつた、而も極く幼少な子供であつたのです。これに依つて見ますと、比較的年長の子供には、人形の顔を洗つたり何かしますと、顔が壊れたり美しい頬の色が落ちたりするといふことを知つて居ると云ふことが出来ます。中には湯を使ふ事が出来る人形を好むと答へた女兒もありました。多數の兒童を皆人形を床に入れたり、着物を着せたりすると答へたけれども、お祈をすると答へたのが僅に七人で、その理由には「私は人形にお祈をしやうと思つたことはありません、お祈をしますと、面白くなつて來ます。」と答へたの

であります。

散歩に出る時には、キット人形を連れて行く。答へたのが僅に十七人で、而も綺麗な着物や、帽子の新しいのを被つて居る時には連れて行く。と答へた子供も些くはなかつた處を見ますと、この場合に、人形の着物の美醜が餘程關係して居るやうであります。此の衣服の點では、田舎の子供と都會の子供との間に、非常な相違があつて、都會の子供は衣服を厳しく云ふよりも、寧ろ空氣の新鮮に注意するといふ傾があります。

九、子供はどんな人形を好むか  
人形の大きさに就いては、大きな方を撰ぶ子供が八十人、小さな方を撰ぶのが二十人、中位の大さのものを撰ぶのは、略、大きな方と同じ位であります。

白い髪の人形を撰ぶ子供が百五十人であつたのに、黒い髪の方は僅に三十人であつて、其の差は

驚くべき相違であります。

白い顔の人形を好むのが二十七人で、主に年少の子供であつたのです。其の理由には、可愛らしいとか、上品であるとか、優美であるとか、いふやうな意味から來て居るもので、其の答を發した子供は、多く田舎の子供である處を觀ますと、自分の顔を餘り亦過ぎると思つて居る爲めではなからうかと思はれます。

自動人形は、獨りで立つたり、眼を開いたり、することの出来る人形を好む子供は多かつたけれども、歩いたり、手を動したり、物を云つたりする人形を好むのは少なかつたのです。

人形は生きて居るものと信じて居る子供は僅に十七人で、而も皆極く幼少な子供であつたのです。然し「私の人形は矢張り人形なんですけれども、私の云ふことが判つたり、聞いたり見たりする」とが出来ると思ふことがあります。」とか或は「人

形と一緒に遊んで居ますと、人形は私の云ふ事が判り、お腹が減つたり、寒くなつたりすると思ひます。」と答へた多數の兒童があつたのです。

#### 十、人形が壊れた時の悲み

自分の最愛な人形を壊すといふことは、子供にとつては、此の上もない悲みであります。私（實際者）自身の子供は、勿論赤兒の時分から幾つともなき人形を、自分の手で壊して來ましたが、それは未だ人形を愛する心の起きない間で、三歳頃になつて、綺麗な人形を與へましてから、其の人形が唯一な、そして最も親しい友となつて來ました。眠る時も散歩に出るときも、必ず連れて行くやうになつて來ました。然るに三歳七ヶ月の時に、其の人形の顔を潰したことがありました。其の時に泣きながら私の傍へ駆けて來まして、「お母さま、此の子は死にはせないでせう。生きて居るでせう。」と震へながら私の返事を迫るのでした。

そして「こんな美しい目をして居るのよ。一緒にお床へ入りませうね……お母さま、この子は生きて居るでせう。よ。」と云ひながら、其の人形を私の膝に置いたまゝ、再び其れを見やうとせせず、後になつて更りの新しい人形を與へましたけれども、どうしても子供は其の悲みを和げるには足りませんでした。然し一ヶ月後になつて、漸く前の人形を忘れて、後の人形を愛するやうになつて來たのであります。然し、もうそれからは、人形を壊しましても、先きのやうな愛着の情はなくなつて、「可いのよ。更りのを買つて戴くの。」と云ふやうになつて來ました。兎に角、人形が食をしたり、眠つたり、感じたりするものであると云ふことを、刹那的に信ずる場合があるのでありまして、且つ人形を壊した時の子供らしい悲みを云ふものは、程度から云へば激しいけれども、時間的には短いもので、普通には更りの人形を貰へば、直ぐに慰

められる場合が多いのであります。

十一、人形が壊れた時にどうするか

人形が壊れた時に、どうするかと云ふことを答へた子供が全體に四十九人で、其の中の六人は立派なお吊をして、埋葬すると答へ、十一人は捨てると答へ、五人は人形を病院へ送ると答へ、一人は爐に入れて焼くと答へ、四人は召使に與へると答へ、二人は孤兒院へ送ると答へ、一人は貧民の子供に與へると答へたのであります。

多數の子供は、自分の人形を他人の手に渡すのを、非常に嫌がるもので、其の情を表した子供は、七割四分の比をなして居ます。これは全く情けの本能から來るものであらうと思はれるのであります。

十二、子供は人形遊で何を表すか

子供が人形遊で表はすものは、病院、學校、葬式、結婚、訪問、食事、衣換、散歩等で、これ等

は皆、子供が自分の見聞した事物を、戯曲的に再現することを好むものであることを證據立てゝ居るものであります。

又、人形遊は、いろ／＼な意味で、子供の心がどれだけ境遇の影響を受けて居るものであるかといふことを表すものであります。貧しい家の子供に都會の賤しい町に住んで居る子供は、燈火を知らなかつたり、花であるとか、樹木であるとかいふものゝ想像が鈍かつたりしますが、これに反して、上流の家庭に育つて、大切に扱はれて居る子供は、澤山の書籍を持つて居たり、且ついろいろな家具などを見る機會が多いだけに、人形遊をする場合に、遺憾なくそれを現して行くものであります。子供の人形遊を心理學上から研究いたしますと、子供の特性を研究することが出來ると共に、想像の研究を助ける點がまして尠くはなからうと思ふのであります。(完)

## 隨 感

藤 園 女

### 一 子供の看病は慈父母に限る事

白金も黄金も玉も何せんに、まされる寶子にしかめやも、は何人も知る所で、其の愛兒の病氣にかゝる程慈父母を痛心させるものはありますまい。利害問題や義理問題で其の子の生命を欲する様な薄弱なものではありませんまい、實に心頭を衝いて起る愛惜の念、胸裏に充つる可憐の情、我が身をこゝに縮めても愛兒の病魔を去らせんと、目に見えぬ神佛に祈るのであります、其の時起る勇猛心愛兒を平癒させんと希ふ時に起る鐵石の心、嗚呼之ありてこそ難病も治癒するのであります。

私は本年五人の愛兒を百日咳にかゝらせました一人の時に於て嚴重に交通遮斷して一室に閉ぢ込め傳染の豫防をいたしましたが、無功に終りました。

て五幼兒はコ、咳き出しました、一家寄つて食事の際も、一杯か二杯食し終るとすぐ吐瀉する、いつも金盥や痰壺を用意して食卓につくのであります、之れが又不思議に一人が咳き初めますと他兒が始めますので殆んど食事中落付いて御飯も戴かれないのであります、大抵短いのは三分位ですが五分十分十五分、長い時には一時間咳き通した事が一度ありました、しかし余病さへ起らなければ生命に別條はないとの事で、用心して他病の襲來を防ぎましたが、不幸にも私自分が急性腸加多兒を患へまして大騒ぎしました。

二日ばかり私が病床についたのが手落の主因で當日は尤も寒い日でありました私の枕頭に長女が來まして、蒼い顔をして、床につきたいと申しま

すから、私と床を並べて臥せしました。

早速醫師を迎へましたが、風邪との事で余り心配もなさうで御座いましたが、私の胸は何となく不安で御座いました、翌朝は寢て居る氣もいたしませんので、起き出で、看護いたして居りましたが、咳は益々はげしく、食慾は全く絶えて、體溫は三十九度でありました、多分は肺炎であらうと存じて早速醫師を呼びました。

生憎留守で其日の三時頃來診して下さいました、案の通り肺炎の併發で御座いました、之は大變と今更騒ぐ譯でもありませんが、何となく心配が増しまして吸入よ濕布よと看護に手落ない様になりました。

其の夜から二男が又發熱いたし、しきりに苦痛を訴へます、早速診察を乞ひますと、之れ又肺炎しかも重體との事、醫師も大變に危れました、一人下さへも兒供の病氣の看護は手がかゝつて大變

ですのに、二人は肺炎、三人は百日咳でコン／＼とやつて居ります、とても奥様が一人では届きませんまいと心配されました。

天なるか、運なるか翌日の來診の結果、長女はさ程でもありませんが二男は生命危篤に陥りました、醫師も匙を投げまして、今急にすぐとも申しませんが、多分心臓麻痺で逝くかと思ひますから呼吸が困難になりましたら、すぐお使を下さいと申し残して歸られました。

雨はシト／＼降ります、四兒は皆床を並べて泣いて居るのや、おねだりをして居るのや、眠つて居るのがあります、驗溫器を片手に私はボンヤリ雨の音を聞くとともに病兒を眺めては何とはなしに涙がホロ／＼こぼれるのでありました、ア、七年といへば短い様で長い其の間一時たりとも油斷せで育て上げ来年は學校々々と樂みし愛兒の今一朝にして病魔の手に奪ひ去られんとす、湧き出

る様な血涙……しかも此一兒を失はんか落膽の  
余り他病兒の運命やいかに。

靴音急はしく歸りませし良人に、具に容體を申  
上げました、良人もいとい愁嘆の聲も低く、今失  
つては……とあとは互に吐息に終るのみ、稍あり  
て良人は今一應主任醫に相談して小兒科専門の立  
會醫を頼まんとて出て行かれました。

夕方になりまして立會醫が見えしました、丁寧に  
診察の結果主任醫と同一の診断でありました、よ  
く手を盡してあります、以れ以上手當の方法はあ  
りませんと申されました、ア、絶望か。

私は思ひました此の上は、至れり盡せりの看護  
を以て之を治するの外手段はありません、精神一  
倒何事か成らざらん、ア、然なり然なり天地神佛  
も照覽あれ、我が兒を思ふ至情を以て、斯病を治  
せでは止むべき、と満身の勇氣を鼓舞しまして、  
敵よ來れ病魔の敵よ、我れ汝に勝つ事を得ずば愛

兒の變りに我が生命を此處に絶たんと心に叫びま  
して吸入に取りかかりました。

夜の更くるにつれて静かになる、静かになるに  
連れて益々思はつもの、多分心臟麻痺で逝かんと  
御察しするとの主任醫のお言葉が胸に浮びます、  
ア、夢であれかし、嘘なれかし、誤診であれと願  
ふも甲斐なや、愛兒の呼吸はいと切にして、言  
語も出でず只幽に眼を開くのみ。

雨はいよく降りしきり、さらぬもしげき袖の  
露あはれ幾度しぼつたで御座いませう、胸にあて  
ました氷嚢四個は二時間ばかりで湯の様になり  
ます、頭をひやす氷枕に氷嚢もすぐ暖まりま  
す、吸入の世話、湿布の取換、大小便の世話、服  
藥の世話で殆んど隙はありませんでした。

吸入しながら愛兒を慰藉するのであります、  
通じるやら通じないやら分らぬ様に只弱い息をふ  
き返すばかりでありました。



三度目に臺所に氷を取換に行きました時、下女は起き出でました、一貫五百目の氷はモー皆無となりました。三ポンドのアルコールもなくなりしました。

心盡しは無駄ではありませんでした、翌朝は大分呼吸の仕具合が確になりました、一週間ばかり続けましたら大分快方に向ひまして今日では丈夫になりました。

何公爵家の若君が肺炎で逝かれたとか、何伯爵家の坊様が氣管支加多兒で亡くなられたとか、其の他かゝる貴族華族富豪の手の届かぬ筈のない家によく、愛兒を失はれて一家悲嘆の涙に暮れられるのは、醫師なり看護婦なり其形式に於て完備して居りまして、却て此の何物を以ても購ふ事の出来ない、親の至情、これが缺けて居ると申しては失禮かも知れませんが、どうしても此れが充分に發揮して居ないのでなからうかと存じます。

私はつくづく感じました、どうしても愛兒の看病は慈父母に限ると、決して慈父母を除いて他に適任者はないのであります、看護婦の如きは只形式に於て完備して居りませうが、誠意が足らない誠意があつても親の子を思ふ情には、とても及びもつきません。』

## 二 嘘言の恐るべき事

子供を育てるのに嘘言をなすまじとは千も百も承知して、決して子供の前で嘘を言ふものでないと知りながらしかも、世の母様は如何で御座いませうか、孟母が豚肉を買ひ來りし話は文明の今日母となるべき人の知らぬ人は少ないでせうが、しかも其通り嘘を教へないで主派に育兒の任を全ふせらるゝ母様が幾人ありませうか、すべての罪惡の根原は此恐るべく厭ふべき嘘にあるといふも過言でない程大事な嘘を子供に教へない母様が御座いませうか、母自身が不知不識の間に嘘を教へて

自らの罪を悟らず其子が嘘をつくとして怒る母様はないでしようか、しかし其嘘は母親自ら意識する事なしになしつゝある事が多い、大なる嘘に至つては子供の前と否とに關らず、嘘を言ふ事の耻しくて殆んど嘘はつけますまいが、何でもないと思ふ平常の行の中に含まるゝ嘘の數多くして恐るべきパチルスなりと氣がついて其嘘を排斥し、純潔なる家庭の中に立派に天使の如き幼男幼女を育てらるゝ母様が廣い世界に幾人ありませうか、私はかつて菊池男爵の夫人が宅では子供を躾るのに大抵な惡戯は余り小言を申しませんが只嘘に至つては其事小なりとも決して寛容しませんと言はれましたが成程と思ひました、育児がどうか、教育がどうかとやかましく言ふて居らるゝ立派な家庭の中下育らるゝ子供は如何に幸多い事かと其内幕を観察いたしますと案外かゝる點に留意せらるゝ事の少ないのに驚くのであります、美しい着物を飾

らせて下女に委ねて安逸に耽らるゝ母様は論ずるに足らず、しかも身體の健康を憂ひ將來の發達を慮らるゝ賢明なる母様も嘘を恐れて厭はるゝ人がありませうが、其嘘恐るべきパチルスは多くの家庭で何でもない様に思はるゝ、そらオバケが出る泣くなゝゝお馬を見せてやりませう、ワンゝゝが來たの類であります、大人から見れば只一時子供の泣くのを止める方便でしょうが其の嘘は泣かせておくより害多き嘘つきの根を子供の腦裏に植えつけるのであります。

私は昨日五歳になる男兄に七歳になる兄の羽織をかりて外出せしめ様といたしました、七歳になる子が不服を申して何といふても聞入れません仕立たばかりの羽織でまだ何れが何れとも決まつてありませんが只何かなしに七歳の子のであるといふてあつたのです、次の分が仕立上つて決定したいと思ふて居りましたから、七歳の子にダツテ

お前のとは未だ決まらないのだからかまはないと  
少し曖昧な事を申して心地悪く自分ながら思ふて  
居りました、七歳になる子は少しノロイ方で何と  
も申しませんで其儘外出しました。

歸宅して二三時間経て入湯しました、生憎五歳  
になる兒の手拭が見えなくて、姉の分がありまし  
た、兒は掛竿よりコッソリと取り洗ひ笑ひながら  
私に申しました、母さん内密にしてよ姉さんに  
言はないで下さいよ、と、私は又何故ですか借り  
たら借りたでよいではないかと申しますと、兒は  
姉さんは使ふと怒るからと申します、怒つたてよ  
いが怒れはしりません、母さんがよく言ふて上ま  
すから、ソナ嘘を言ふのではありませんよと申  
しますと兒はすかさず、母さんだつて嘘を言ふて  
だから僕も嘘をつくのですと大真面目、何を母さ  
んが嘘をつきましたかと申しますと、子供は先刻  
母さんは兄さんの羽織をそうでないとお仰つた、

アレは嘘ではないのと、ア、あやまります母さん  
が悪かつたと五歳の幼兒に赤面いたす様な事が御  
座いました、子供だから構はないと世間ではよく  
子供を馬鹿にする様な人が御座いますが大變な間  
違、子供だからよく氣をつけて行かねばならぬ事  
と今更の様につくづく感じたのであります。』

### 三 怒るべき場合に怒るべき事

すべて大人でも子供でも少しの事によく怒る人  
があります、或は怒らない様に面に平氣を装ふて  
中心不平に堪えない人もありますが、此等は大抵  
原因が自己の見識の狭い爲に何でもない事に怒り  
人には笑はれ、自己には不經濟に精力を費して、  
自他共に損をする所が多いのであります、かゝる  
事は素より修養によりて其弊を除き或は減する事  
が出来ますが、大人になつてから治するのは中々  
困難で御座います、だから幼少の頃から母親が氣  
をつけて其弊に陥らぬ工夫が大事ではありますま

いか。

今朝私は食事する際に、皆食卓につかせ様と存じて呼びましたが長男は一生懸命書き物をして居りました故か中々食堂に参りません、他の兒を以て言はしめましても未だ参りません、やむなく皆で食事を始めました、中頃長男は食堂に入り来るや否食卓を一見して不平の色包みがたくいきなり妹に向つてとなりつけました、ソレは自分のお汁をなでよそはないかとの不平でありました、妹はオロ／＼として居ります、他の兒は一齋に目をそばだてました、私は心中かゝる機會にこそと、しばらく長男の怒の鎮まるのを待ちまして、お汁の熱いのをよそひつゝ、お身はリコーだけれど未だ幼少な丈に智恵がありません、智恵がないから怒らないで宜い時に怒つて自ら不愉快に且つ人を不愉快に導くのであります、今お身のお汁を一番によそつておかなかつたのは、お身にお甘しい所

を吸はせたい母の情です、少しでもお身の身體の健康を増さす事について苦心して居る母の慈愛の發現です、皆一緒によそつてお前の分を一番先にすませておけばお前が此處に来るまで瓦斯をたいて不經濟な事をしておかないでもすむ、しかし此の寒い最中、十分も十五分も前によそつたお汁を呑んで滋養になるでしようか、言はずも知れ切つた事、お寒い時には成丈温な物を食べさせて色艶のよくなるを見て獨り心算に喜ぶは母の子を思ふ情、且つやお前は食事を報じても來ない、自己の落度を棚に上げて母に對しては怒る譯に行かないから妹に怒を移すとは何事、それでも一等の兄さんと尊ばれて五人の弟妹の上に立てますか、五人の弟妹の手下として耻しくありませんか、人は怒るべきものでないとは申しませんが怒つて益ない様な怒は實に自他の損害を招くばかりです、怒らざるを得ざる場合に怒る事の出來ない様な卑屈になるは無論避くべき事です、今の様な怒つて會己己の不明不識を人に現す様な場合に怒るは愚かな

至りです。

今の場合は怒る所の事でなく、自己の遅刻を詫び且つ母の情に感謝の意を表すが至當ではありますまいか、之れから長するに従つてかゝる場合に遭遇する事も数々ありませうがよく其時の真相を見徹して、その後それに相當の處置をすべきであります、重荷を負ひて遠き道行くにぞ似たる人生は、種々の出来事の數限りもありません怒るべき場合、泣くべき場合、笑ふべき場合、恨むべき場合、悔ゆべき場合、恥べき場合、喜ぶべき場合………色々な場合に出逢ふ事がありました時眞に泣くべき場合かどうか、眞に怒るべき場合かどうかといふ事を最も迅速に看破し、眞に怒るべき場合には適度に怒るもよろしい、眞に泣くべき場合には泣くもよろしい、只徒らに皮相のみによつて情の發するまゝに怒り泣くはよろしくありません、況や今の如き間違つた事で怒るなどは最も戒むべき事です以後かゝる間違のない様氣をおつけなさいと、十二歳にしては少し大人びた子ですから少しは解つた様で御座いました。』

## 雜 錄

### 本會主催音樂會景況

前號に豫告して置きました本會主催の音樂會は、豫定の如く客月廿五日下午一時より、東京女子高等師範學校講堂に於いて開會されました。當日は幸にして近來の晴天を見、籬外の春色更らに一點の深みを増し、わが催しには最も適ばしい天候でありました。いけに、開會時刻に到らずして、滿場既に立錫の地を餘さず、まれに見る盛況を呈しました。刻來りて中川會長の開會の辭終るや、順序通りの曲目は、それ／＼樂手の妙技に奏せられ、靜肅な空氣に滿ちた講堂内は、たゞ妙なる樂の音が漂ふのみで、殊にベッオールド夫人の高調なる獨唱は、其の技神に入り、滿場の聽衆をなして、自ら感激の聲を洩らしむるのみでありました。

今回は第一回の企でありましたので、當日の景況は主催者の大に心配して居た處でした。然るに結果は此れに反して、斯程の盛況を見ることの出来ましたのは、本會の大に意を強ふる處であると共に、我が微志ある處を諒とせられ、多くの賛同と助力とを與へられました同好の諸氏に、萬腔の感謝を捧げなければなりません。

## 新刊紹介

### 渡邊醫學士著『活ける家』

此の書は醫學士渡邊房吉氏の著で、嘗て婦人衛生雜誌に連載せられましたのを訂正増補して一冊の本とせられたものであります。『活ける家』とは人間の身體を家屋に譬へての名で、人體の生理衛生の諸問題が極めて興味多く分り易く説いてあります。例へば活ける家の家政家として血液のことを説き、活ける家の主人の室として腦髓のことを説いてある類です。生理衛生の話は多く乾燥になり易いものですが、此の書ほど迄も興味を失はぬ様に骨を折られてあります。家庭の主婦としても、幼兒の師としても此の方面の新しい智識の必要は更めていふ迄もありません。此の有益と興味とを兼ねた好著が、廣く家庭幼稚園に行き渉るようにし度いものであります。(麹町區富士見町二丁目大日本私立婦人衛生會發行 正價金七十錢)

### ○本誌定價

- ◎一冊郵稅共金拾一錢
- ◎六冊前郵稅共六拾錢
- ◎拾二冊同金壹圓貳拾錢
- ◎郵券代用一割増

### ○購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に御送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

### ○本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

- (イ) (庶務上保姆紹介に關する件を含む)の御手紙は東京市小石川區久堅町七十四番地フレーベル會事務所宛
- (ロ) 會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、雨森銅宛
- (ハ) 本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々木九二、倉橋惣三宛

明治四十五年三月五日印刷  
明治四十五年三月五日發行

編輯兼發行者 東京府豐多摩郡代々幡村代々木九二倉橋惣三

印刷者 東京市本所區番場町四番地登

印刷所 東京市本所區番場町四番地

發行所 東京市小石川區久堅町七十四番地  
フレーベル會